

Comprehensive Assessment System for Building Environmental Efficiency

# CASBEE札幌



## 重点項目 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE\_Sapporo2014v1.2

■使用評価ソフト: CASBEE札幌2014(ver.1.3)

1 建物概要		BEE	1.5	BEEランク	A
建物名称	クリーンリバーフィネス札幌ミッドステージ(ウエスト棟)	総合評価	★★★★★		
建物用途	集合住宅				
延床面積	9,789.53 m <sup>2</sup>				

2 重点項目への取り組み		レーダーチャート
地球温暖化対策	最重点項目 <b>省エネルギー</b> ★★★★★	<p>省エネルギー性能 5.0 4.0 3.0 2.0 1.0 0.0</p> <p>雪処理</p> <p>省資源等への取組</p> <p>緑化への取組</p> <p>この建物は特に <b>省エネルギー性能</b> が優れています</p>
	<b>省資源等</b> ★★★★★	
	<b>緑化</b> ★★★★★	
	<b>雪処理</b> ★★★★★	

3. 設計上の配慮事項とCASBEEスコア					
<b>A 省エネルギー</b>				合計	21点 / 24点
Q1 温熱環境	スコア 0.0	LR1	建物外皮の熱負荷抑制	スコア	4.0
Q1 光・視環境	スコア 5.0	LR1	自然エネルギー利用	スコア	1.0
		LR1	設備システムの高効率化	スコア	9.0
		LR1	効率的運用	スコア	2.0
<b>B 省資源等</b>				合計	16点 / 23点
Q2 耐用性・信頼性	スコア 1.0	LR2	非再生性資源の使用量削減	スコア	5.0
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア 1.0	LR2	汚染物質含有材料の使用回避	スコア	2.0
		LR3	地球温暖化への配慮	スコア	4.0
		LR3	地域環境への配慮	スコア	3.0
<b>C 緑化</b>				合計	10点 / 16点
Q3 生物環境の保全と創出	スコア 2.0	LR3	地域環境への配慮	スコア	2.0
Q3 まちなみ・景観への配慮	スコア 5.0				
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア 1.0				
<b>D 雪処理</b>				合計	2点 / 3点
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア 0.0	LR3	地域環境への配慮	スコア	2.0

4 設計上の配慮事項			
<b>A 省エネルギー</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>低炭素建築物新築等計画認定を取得し、日本住宅性能表示基準の一次エネルギー消費量等級5を満たす程、省エネルギー対策を充実させている。</li> <li>効率の優れた潜熱回収型給湯設備の使用など、省エネルギー効果が期待できる設備を採用している。</li> </ul>			
<b>B 省資源等</b>	<b>C 緑化</b>	<b>D 雪処理</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>乾式間仕切、断熱材のウレタン吹付等、分別を比較的容易にしている。</li> <li>ODP=0、GWP&lt;10の断熱材を使用している。</li> <li>地球温暖化対策の取組みによりLCCO<sub>2</sub>排出率が77%となっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基調となる樹種は、耐陰性・耐寒性のある常緑針葉樹を用い、冬の緑量確保に配慮している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>敷地内車路・通路をロードヒーティングとし、冬季間の除排雪作業の軽減に努めています。</li> </ul>	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される